

本日の為替見通し

ポイント

オバマ米大統領の一般教書関連で、「豊かな暮らしをする人が減り、生活を維持できない人が増えているこの国の状況を甘受するか、あるいは全ての人々が公平な分配を受け、全員が同じルールに従う経済を取り戻すのか、いずれかの選択・・・」と言っているが、全ては今年11月6日の米大統領選挙に向けての発言にも聞こえてくる。

昨日のFOMCでは、異例の低水準の政策金利を2013年半ば→2014年末まで継続することを発表した。最近の米経済指標はバーナンキFRB議長が言うように、景気の拡大や失業率の改善傾向を示す数字が多い中での発表に、ドルは全面安の展開となったが、英国は量的緩和の可能性が高まり、オーストラリアも引き続き政策金利を引き下げる可能性もあり、主要国の金融引き下げラッシュになりかねない。

ギリシャ債務交換協議で合意は見られず、26日にアテネにもどり債務交換協議の交渉を再開すること。サプライズは、IMFがECBに民間債権団と同じく損失を受けるように圧力をかけているとの報道で、それによれば、ECBは拒否、ドイツも拒否したECBを支持とある。ギリシャ問題は今後どうなるのであろうか？

ダボス会議でジョージ・ソロス氏は、「ドイツ主導で欧州連合(EU)は解体しかねない緊張が生じる恐れがある」や、「ギリシャはユーロから追放されるかもしれない」など、物騒な発言をしているが、発言者がソロス氏だけに、重みを感じる。

FOMCの初めての試みは、色々な国際機関や政府見通し、エコノミストの予想より信憑性が高いと思って見ているが、結局のところ、2014年から米経済は回復を、異常な低金利や量的緩和措置が終了するとの見通しのようなのだが、はたしてその通りになるのか・・・。

為替相場は、AUDUSD主導のドル安相場が続いているが、いつまで、どこまで続くのか？AUDUSDは昨年10月31日のレベルと同じ1.06台まで急上昇、上昇幅は最も大きい、1.07台は昨年9月、10月と二度上値トライを失敗しており、強い抵抗が予想される。

AUDJPYはクロスの円売りをリードし、目先のポイントをブレイクし終値で、昨年10月末の水準を超え、9月の水準まで上昇したことで、相当抵抗が予想される。EURJPYは102円近くまで上昇、昨年12月13日の水準となり、102台では抵抗が予想される。EURUSDは1.31台を達成したが、1.31台の終値は12月13日以降になく、この水準も抵抗が予想される。逆に、数日間底固めできれば続伸の目も出てくるが・・・。

明日は米第4四半期のGDP速報値の発表がある。もし、この数字が予想を大きく上回ればドルのショートポジションはどうなるのだろうと、想像しながら、テクニカルを見れば、AUDUSD主導のドル安トレンドが続き、クロスではAUDJPY主導の円安トレンドが続いている。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25日指数移動平均線は1.2949で、買いを継続。DOPup=1.3214, DOPdn=1.2563。スロー・ストキャスティックは%K=88.48, %D=75.72, 買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーン。
 EURJPY(日足) = 25日指数移行平均線は100.00で、買いを継続。DOPup=101.74, DOPdn=97.06。スロー・ストキャスティックは%K=88.87, %D=75.10, 買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーン。
 USDJPY(日足) = 25日指数移動平均線は77.22, この線を上抜け買いを継続。DOPup=78.66, DOPdn=76.13。スロー・ストキャスティックは%K=65.40, %D=56.42で、買いを継続、ベースはニュートラルに近い。

本日のCFD見通し

ポイント

最近では金価格の上昇を示唆するようは発言やコメントが多く見受けられる。昨日もゴールドマン・サックスは金のリターンは過去5年間で、他の商品市場と比較すると最も高いと発表し、価格上昇の見通しを流していた。イランの核開発疑惑にイスラエルは単独行動も辞さないとの強気の発言をし、イランをけん制している。IMFはイラン制裁措置でイラン石油の供給は一日当たり150万バレル減少する可能性があり、第一次石油ショックやリビア情勢不安の供給混乱時に匹敵するとの発表も、なぜか原油価格の上昇に至っていない。材料的には目新しいものではないが、リスク回避からすれば原油価格安定は不思議でだが、テクニカルポイントをブレイクできるかを見極めたい。

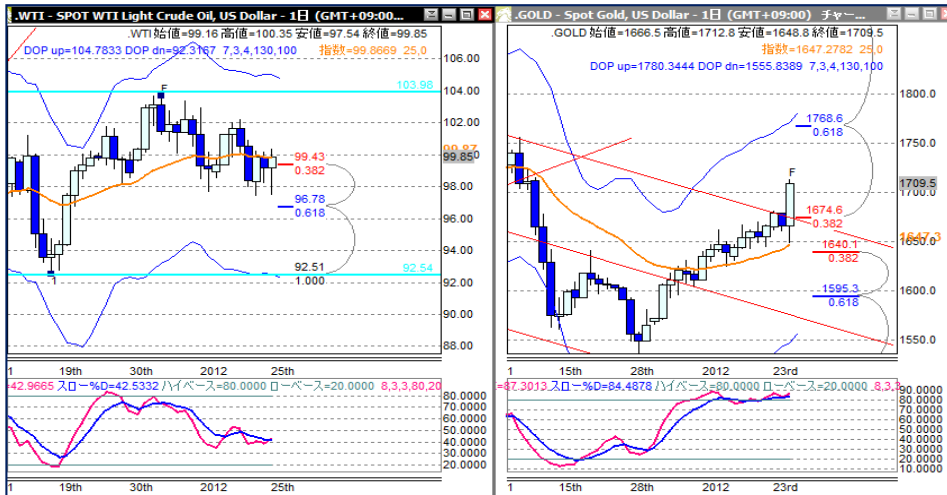
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.87で上値を抑えられ、ここ数日間は同じような水準での取引が続いている。引き続き大枠で92.50~104円を抜け出すまでは、金価格のように方向性が見えてこない。上値のターゲットは、103.98、105.02。下値のターゲットは、96.78、92.51。

◎Spot.Gold

EMAは1647.26で買いの流れが続いている。大きなダウントレンドの上限をあっさり上抜けし、買いの流れが加速している。テクニカルでは強い上昇の流れが確認できたことで、EMAを割り込むまでは市場参加者のセンチメントはブルに傾きやすい。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25日指数移動平均線は99.87で、終値ベースでこの線を上限に下げ止まっている。DOPup=105.02、DOPdn=92.55。スロー・ストキャスティックは%K=42.97、%D=42.53で、サインは不透明、ベースはニュートラル。
 Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25日指数移行平均線は、1647.26、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=1771.13、DOPdn=1546.62。スロー・ストキャスティックは%K=87.18、%D=84.45で売り買いが交错、強いトレンドの影響なのか売りにならず、ベースは買われ過ぎゾーンで停滞。

1月26日(木曜日) 注目の経済指標 その他

注目されている発言・その他

- 19:00 イタリア国債入札
- 20:30 メルケル独首相・ラホイ・スペイン首相との首脳会談
- 03:00 米財務省7年債入札
- 03:00 オバマ米大統領が経済について講演
- G20 財務相・中央銀行総裁会議(メキシコ市) 25~26日
- ラガルド IMF 専務理事、ラホイ・スペイン首相と会談

注目されている経済指標

- 5:00 NZD NZ 中銀政策金利を発表=2.5%の政策金利の据え置きを決定、予想通り→すでに発表済み
- 22:30 USD 週間 新規失業保険申請件数=予想 37万件 前回 35.2万件
- 0:00 USD 12月 新築住宅販売件数=前月比予想 1.6%・32万件 前回 1.6%・31.5万件

1 月 26 日 (木曜) 本日の主な経済指標と発表予定

5:00	NZD NZ 中銀政策金利を発表=2.5%の政策金利の据え置きを決定、予想通り
16:00	GER 2 月 GFK 消費者信頼感調査=予想 5.6 前回 5.6
20:00	GBP 1 月 英産業連盟 (CBI) 報告済売上高=予想-6 前回 9
22:30	USD 12 月 耐久財受注=前月比予想 2.0% 前回 3.8%、除輸送機器=前月比予想 0.9% 前回 0.3%
22:30	USD 12 月 製造業受注・資本財=予想 1.0% 前回-1.2%
22:30	USD 週間 新規失業保険申請件数=予想 37 万件 前回 35.2 万件
0:00	USD 12 月 景気先行指数 総合指数=予想 0.7% 前回 0.5%
0:00	USD 12 月 新築住宅販売件数=前月比予想 1.6%・32 万件 前回 1.6%・31.5 万件

昨日 (1 月 25 日) の海外市場の動き

米株価は上昇 (+83.10+0.66%)、独 DAX は上昇 (+2.63+0.04%)、英 FTSE は下落 (-28.90-0.50%)、Spot.Gold は大幅上昇 (+44.40+2.67%)、Spot.WTI「Light Crude Oil」は上昇 (+0.51+0.51%)

◎日本の 2011 年貿易統計速報は 1980 年以來の 31 年ぶりの赤字となる→ JPY 売りが始まる

◎豪第 4 四半期の消費者物価指数は、前期比予想・前回は下回ったが、中銀 CPI トリム平均値は前期比 0.6% 予想・前回は上回る→ 前期比が低く瞬間下げから、コアが高く豪中銀の利上げ観測が弱まり、AUD 買いが始まる。

◎スワン豪財務相は、昨年第 4 四半期の消費者物価指数後の会見で、さらなる利下げ余地があると発言→ 市場は全く無視。

◎独 1 月の景気動向指数は 3 カ月連続の上昇で予想・前回は上回る→ 一時 1.3050 台まで上昇。

◎英 12 月の住宅ローン承認件数が一年半ぶりに水準に拡大→ GBPUSD1.5530 台で下げ止まり反転上昇に向かう

◎英第 4 四半期 GDP は前期比はマイナス成長で予想を下回る→ 次回の金融政策委員会で資産買入れ枠の拡大の可能性が強まり、GBP 売りが強まるが、発表の前から EURGBP の買いに下落しており、逆に、発表直後の 1.5530 を安値に、GBP の買い戻しが始まった。

◎英中銀議事録は、9 対 0 の全会一致で金利据え置きと、資産買入れ枠の据え置きを決定、メンバーは量的緩和の拡大を指摘。

◎米 11 月の住宅価格指数と、中古住宅販売は予想より悪い→ ドル高がピークアウト、ドル売りへ変化。

◎米 FOMC は市場の予想通り政策金利の据え置きを決定、声明では、失業率は高水準で推移しインフレは抑制されると予想し、異例な低水準の政策金利を 2013 年半ば→2014 年末まで延長し維持することを発表→ サプライズの声明でドル売りが加速し、特に AUDUSD の上昇が目立った。

◎FOMC の経済見通しと FF レートの予想値は、11 人が 2014 年までに政策金利 0.25% を上回ると予測→ ドルの買い戻しが入る。

◎バーナンキ FRB 議長は、債券を追加購入する選択肢は机上にあると発言→ ドル売りの流れがやや強まる。

USDJPY アジア市場は、朝方の 77.61 を安値に、日本の 2011 年貿易統計が 31 年ぶり (1980 年来) の赤字となり、12 月 23 日の下落が開始した 78 円のスタート地点近くまで上昇した。欧州市場に入る、暫くは実需筋の売りに 78 円台のトライ失敗し、EURJPY の買いに 78.00 の壁を上抜け 78.20 台まで上昇、EURJPY が売りへ反転し、USDJPY の買いの流れも弱まり、ファンド筋の大量の売りに一時 78 割れまで値を下げた。米国市場に入っても買いの流れが続き、78.20 台まで上昇、米住宅価格指数+中古住宅販売が悪く、ドル売りの流れへ変化し、78.10~20 の水準から、米 FOMC の発表を受け 77.50 台まで急落、初の試みとなる経済見通しと FF レートの予想値が発表されると、77.90 台を回復し、バーナンキ FRB 議長の記者会見後には 77.60~80 で推移した。

EURUSD アジア市場は、朝方の 1.3046 を高値に 1.3015 まで下落、大枠 1.3015~35 のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、いつもの中東勢の買いや独 IFO が予想より強く、EURGBP の買いも加わり 1.3051 まで上昇したが、ギリシャ債務交換交渉の合意に至らず、実需筋や大口の利食い売りに、1.2930 近くまで下落、オプション絡みの売りに 1.2950 を中心とした取引が続いた。米国市場では、米住宅価格指数+中古住宅販売が悪く、ドル売りの流れへ変化し 1.2980 台を回復、米 FOMC の発表を受け高値を更新し 1.31 台まで急上昇し、経済見通しと FF レートの予想値が発表されると 1.3040 台まで値を下げ、バーナンキ FRB 議長の記者会見後には、1.3120 近くまで上昇した。

AUDUSD アジア市場は、豪第 4 四半期 GDP の発表に直後、前期比が弱く 1.0444 まで下落から、前期比コアが強く 1.0535 まで上昇した。欧州市場では、一時 1.0540 近くまで上昇したが、EURUSD の下落に 1.0450 割れまで下落、大枠 1.0445~75 のレンジで取引が続いた。米国市場では、米住宅価格指数+中古住宅販売が悪く、1.0480 台を回復、経済見通しと FF レートの予想値が発表されると 1.0550 台まで値を下げ、バーナンキ FRB 議長の記者会見後には、1.0620 近くまで上昇した。

金・原油価格

◎ゴールドマン・サックス＝ボラティリティで調整後の金のリターンは過去 5 年間で、商品市場で最も高い。オプション市場での金のリスクが比較的低いため相場上昇が続くとみている。今年の金相場は最高値に達すると予想

◎ネタニヤフ・イスラエル首相、イランの核開発疑惑に緊張する国際情勢は、第 2 次世界大戦のナチス・ドイツによるユダヤ人の大量虐殺を教訓とし、自国防衛のためには単独行動も辞さない

◎IMF＝1月25日のG20への報告書で、欧米によるイラン制裁の影響で、他国が原油供給を代替できなければ原油価格は20～30%上昇する可能性。制裁でイラン石油の供給は一日当たり150万バレル減少する可能性があり、第一次石油ショックやリビア情勢不安の供給混乱時に匹敵する

◎EIA 週間石油在庫統計、原油在庫+356万バレル、ガソリン-39万バレル、精製品-246万バレル、製油所稼働率82.2%(-1.5%)

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、99.32を高値に98.90まで続落。欧州市場は、99.00超えの売りが続き98割れまで続落となった。米国市場では、一時97.60近くまで下落したが、23日の安値97.43を割り込むことができず、米経済指標の発表を受けたドル売りに、99.50を回復、FOMCの発表を受け100.35まで急伸、経済見通しとFFレートの予想値が発表されると、99.50割れまで値を下げ、バーナンキFRB議長の記者会見後には99.50を底値に99.87まで上昇した。

◎Spot.Gold

アジア市場は、大枠1664～1668の狭いレンジから終盤にかけては1668.7まで上昇した。欧州市場では強い独IFOに1669.9まで上昇したが、これを高値に、ドル高の流れに1652台、大枠1652～1657のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、米国市場では、一時1650割れまで値を下げたが、米経済指標の発表を受けたドル売りに、1662台を回復、FOMCの発表を受け1704近くまで急伸、経済見通しとFFレートの予想値が発表されると一時1693近くまで値を下げたが、バーナンキFRB議長の記者会見後には1700の大台を回復、1710台まで上昇した。

昨日(1月25日)の主な発言・出来事

欧州関連
レーン欧州委員会委員＝◎モンロ・スペイン国庫相が、リセッションを理由に財政赤字のGDP比4.4%の達成目標の緩和の求めを拒否 ◎2012年の財政収支目標の達成は絶対条件
ドイツ30年債入札＝◎応札額50.42億ユーロ、目標上限30億ユーロ、平均落札利回2.62%
チェフパバイ・ハンガリー国家経済省次官＝◎ハンガリーはIMFから150～200億ユーロの金融支援パッケージが必要となる可能性がある
ストライター独政府報道官＝◎欧州首脳は救済基金の上限5000億ユーロの引き上げを3月に決定
メルケル独首相＝◎共同債は欧州が一つの国になって初めて可能

ギリシャ関連
関係者＝◎ECBギリシャ債の債務編成に民間部門の投資家と同じく圧力を受けているが、債務再編を断固拒否
キール・独世界経済研究所＝◎ギリシャの財政が安定するには、国債保有の民間投資家が80%の損失を受け入れる必要がある
欧州連合(EU)＝◎ギリシャ債務交換協議は近く合意へ、1月の合意が望ましい
マイスター独議員・CDU金融問題広報担当＝IMFがECBにギリシャ債の損失受け入れを求め、ECBが拒否している問題で→欧州の政治家は、中銀に対する第三者からのこのような不謹慎な要求を容認するとは想像もできない
NYタイムズ＝◎ECBが保有するギリシャ債で、ギリシャの債務負担を軽減し、ECBに損失が生じない形の交換を協議している
ダラーラ IIF 専務理事＝◎26日にアテネにもどり債務交換協議の交渉を再開
IMF 声明＝◎IMFはギリシャの民間部門債務削減交渉でECBに具体的役割は求めていない ◎民間部門関与と公部門の支援の組み合わせで支えられる

FOMC 結果と声明
◎異例な低水準の政策金利を2013年半ば→2014年末まで延長し維持 ◎失業率は高水準で推移しインフレは抑制されると予想 ◎メンバーの中には雇用情勢を改善させ、住宅市場の復活は追加の金融緩和が必要との声もある ◎ラッカー連銀総裁反対
◎世界の成長の一部に減速が見られるが、米経済は穏やかに拡大 ◎労働市場は一段と改善しているが、失業率は依然として高い ◎家計支出は拡大が続くが、企業の設備投資の拡大ペースは減速、住宅セクターは低迷が続く インフレは過去数カ月抑制され、長期のインフレ期待は安定している
◎今後数四半期の経済成長ペースは穏やかで、失業率は期待水準へ向け緩慢なペースの低下にとどまる ◎世界金融上の緊張次第手は景気見通しに大きな下振れリスクがある ◎インフレは数四半期かけ目標の水準か、下回る水準で推移と予想 ◎非常に緩和的な金融政策スタンスを維持する方針で、2014年遅くまで低金利を正当化する可能性が高いと想定

経済見通しとFFレートの予想値を発表

◎11人は2014年末までに政策金利が0.25%を上回ると予測 ◎2%のインフレ率は長期的にFRBの目標と合致 ◎雇用水準の長期目標は特定せず ◎2012年成長率2.2~2.7%(前回2.5~2.9%)と予測 ◎ゼロ金利解除の予測、2012年3人、2013年3人、2014年5人、2015年4人、2016年2人 ◎長期政策金利予測は3.75~4.5%
◎実質GDP=2012年 2.2~2.7%増に下方修正、2013年 2.8~3.2%増に下方修正、2014年 3.3~4.0%増に上方修正、長期2.3~2.6% ◎失業率=2012年 8.2~8.5%に修正、2013年 7.4~8.1%に修正、2014年 6.7~7.6%に修正、長期 5.2~6.0% ◎PCEインフレ率=2012年 1.4~1.8% コア1.5~1.8%、2013年 1.4~2.0% コア201.5~2.0%、2014年 1.6~2.0% コア1.6~2.0%、長期 2.0% コアなし
2012年末の政策金利0.0~0.25%14人、0.50%1人。2013年末の政策金利0~0.25%11人、0.50%1人、0.75%2人、1.0%1人、1.75%1人、2%1人、2014年末の政策金利、0~0.25%6人、0.50%2人、0.75%1人、1.0%2人、1.5%1人、2%1人、2.5%3人、2.75%1人 長期的見通し=3.75%1人、4.0%7人、4.25%3人、4.5%6人

バーナンキFRB議長の記者会見
◎債券を追加購入する選択肢はなお残っている ◎FOMCは住宅分に強い関心 ◎資産の売却は2015年に始まる ◎多くの要因でインフレ圧力は抑制する ◎最近の経済指標には勇気づけられる

オバマ米大統領の一般教書関連
◎富裕層に30%の最低実効税率を求め、配当収入やキャピタルゲインに対する課税の抜け穴を防ぐよう求めた ◎巨大銀行はいまやリスクを伴う儲けはできない ◎住宅ローンの借り換え計画を数週間以内に発表 ◎給与と所得税の延長を議会に求める ◎住宅ローンの不正行為を調査する機関を設立
◎アフガニスタンとイラクからの米軍撤退で節約した予算の半分を債務削減に、半分を国内インフレ再構築に使う
◎中国等の不公正な貿易慣行に厳しく対処、中国支援の企業と競合する会社を支援する ◎シェールガスの採掘を拡大し、60万人の雇用を創出

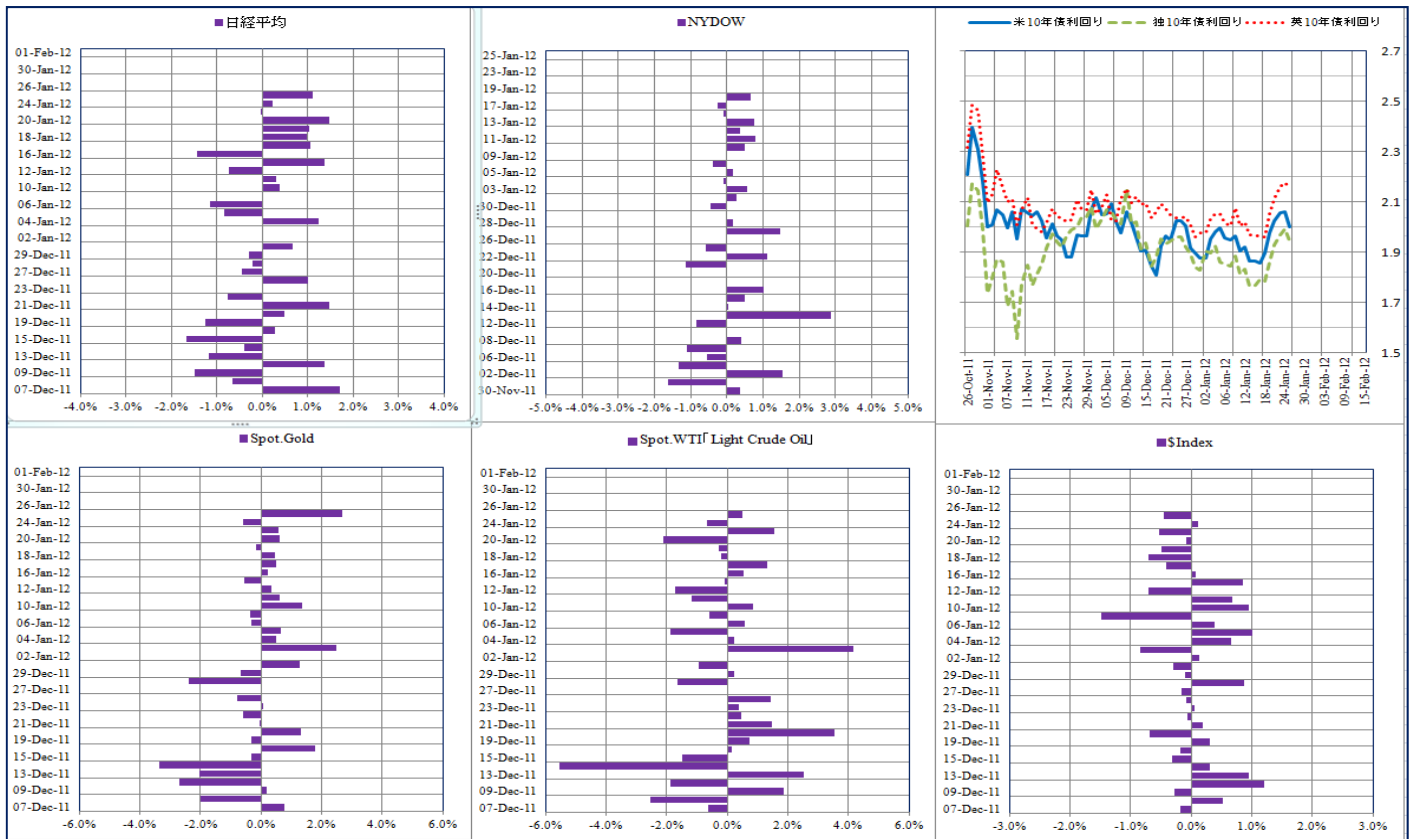
ダボス会議関連
ソロス氏=◎ドイツは財政規律を実現させる指導的役割を担っているが、ドイツ主導で欧州連合(EU)は解体しかねない緊張が生じる恐れがある ◎ギリシャはデフォルトしてもユーロ圏から離脱する必要にならない可能性 ◎スイス中銀による相場上限設定にたいして、投機的仕掛けはやらない、スイス中銀は上限を維持する必要なフランをいくらでも印刷できる ◎ギリシャはユーロから追放されるかもしれない ◎米経済はかなり強さを示している

AUD	スワン豪財務相=◎昨年第4四半期の消費者物価指数後の会見で、さらなる利下げ余地がある
JPY	日本の2011年貿易統計速報は、1980年以來の31年ぶりの赤字となる-2兆4927億円だった。第2次石油危機で原油輸入額が膨らんだ1980年以來で、過去最大の赤字額は1980年の2兆6129億円で、2011年の赤字は過去2番目の大きさだった。
GBP	英中銀議事録=◎1月12日の金融政策委員会(MPC)は全会一で資産買入れ枠の現状維持を決定 ◎一部メンバーはインフレ率が目標を下回る可能性があり、現行プログラム終了後に追加の景気刺激策が必要になる可能性が大きいが、MPCは必要ないと判断で一致した ◎世界経済に起因する相当な下振れリスクが残る ◎目先のより深刻は下振れリスクの一部が緩和する進展がこの1カ月あった ◎2011年第4四半期と2012年第2四半期の横ばいで変更の要素はない
OTH	ラガルドIMF専務理事=◎米国・日本・その他の地域景気は、正しい決定が下されれば2012年末には改善する

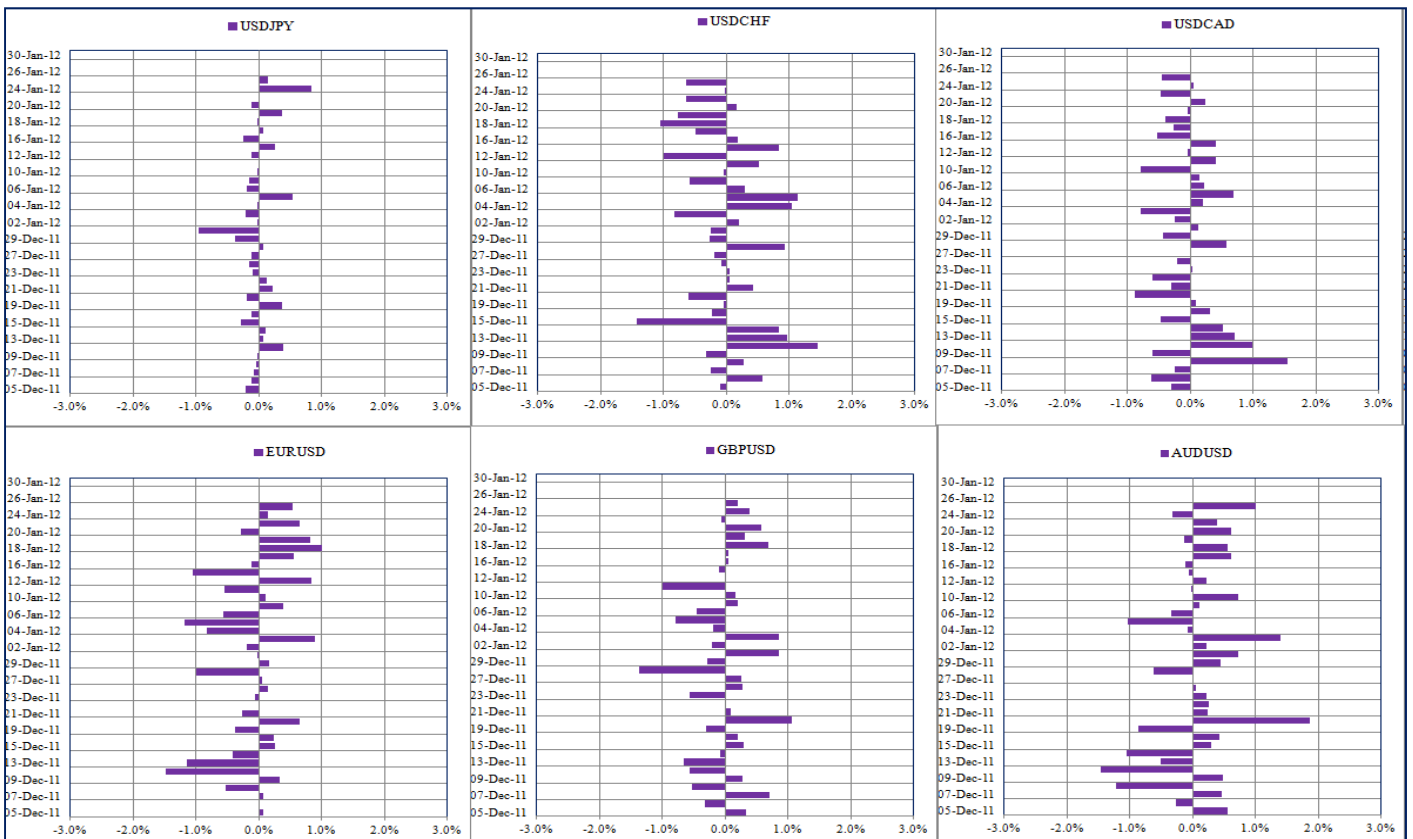
昨日(1月25日)の経済指標と結果

8:30	AUD 11月 ウェストパック先行指数=-0.2%(予想 前回0.1%)
8:50	JPY 12月 通関ベース貿易収支=-2051億円(予想-1549億円 前回-6876←-6847億円)、季調済貿易収支=-5676億円(予想-3849億円 前回-5342←-5379億円)
9:30	AUD 第4四半期 消費者物価指数=前期比0.0%(予想0.2% 前回0.6%)、前年比3.1%(予想3.3% 前回3.5%)、中銀CPIトリム平均値=前期比0.6%(予想0.5% 前回0.4←0.3%)、前年比2.6%(予想2.4% 前回2.4←2.3%)
18:00	GER 1月 IFO 景気動向指数=108.3(予想107.5 前回107.3←107.2)、現況指数=116.3(予想116.7 前回116.7)、期待指数=100.9(予想99.0 前回98.6←98.4)
18:30	GBP イングランド銀行議事録公表
18:30	GBP 12月 BBA住宅ローン承認件数=36171件(予想35000件 前回34738件)→1年半ぶりの強い数字
18:30	GBP 第4四半期 GDP・速報=前期比-0.2%(予想-0.1% 前回0.6%)、前年比0.8%(予想0.8% 前回0.5%)
20:00	GBP 1月 英産業連盟(CBI)トレンド注文総量=-16(予想-23 前回-23)、トレンド販売価格=13(予想3 前回7)
20:00	GBP 1月 Business Optimism=-25(予想 前回-30)
0:00	USD 11月 住宅価格指数=前月比1.0%(予想0.0% 前回-0.7-0.2%)
0:00	USD 12月 中古住宅販売成約=前月比-3.5%(予想-1.0% 前回7.3%)、前年比4.4%(予想 前回6.9%)
2:30	USD FOMC 金融政策発表=政策金利0.25%の据え置きを決定、予想通り、

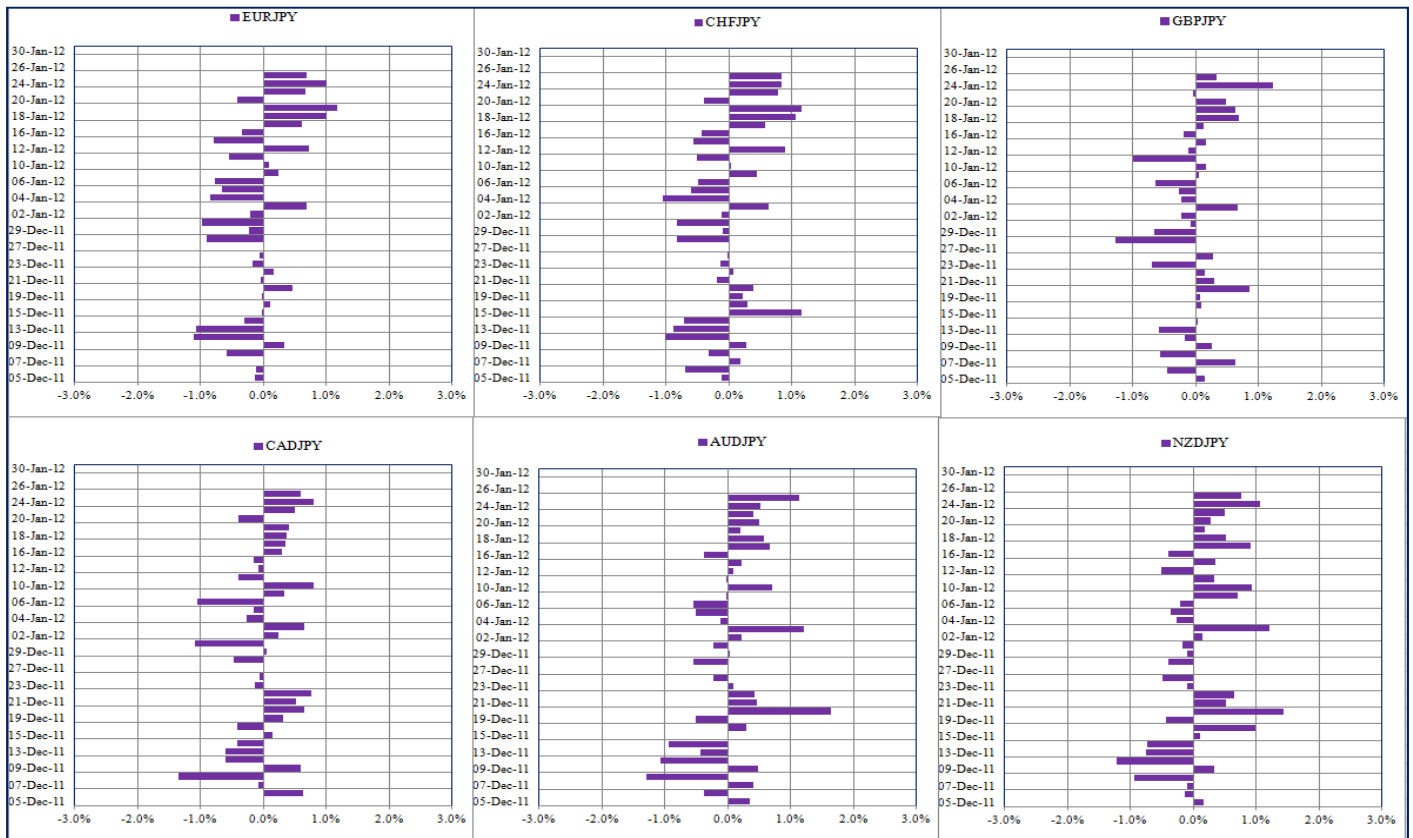
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011